

# 令和3年度 第2回教育委員会定例会

## 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和3年5月11日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 野村 宏治
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 今井 誠
↓		
午後3時30分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 兼 米田 昭嗣
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長
	教育委員 福里 由加	

## 会議要旨

### 1 開会

定刻、定足数に達しており、令和3年度第2回教育委員会定例会を開会した。  
議案第9号は、教育長から、非公開で審議する旨の発議があり全会一致で議決された。

### 2 令和3年度第1回定例会会議録の承認 承認

### 3 議事

報告第12号 垂水市教育委員会教育用情報機器等貸出要綱の制定について  
議案第9号 垂水市奨学資金奨学生の決定について

### 4 その他

### 5 委員並びに教育長及び課長報告

### 6 閉会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第12号 垂水市教育委員会教育用情報機器等貸出要綱の制定について</p> <p>議案第9号 垂水市奨学資金奨学生の決定について</p>	<p>垂水市教育委員会教育用情報機器等貸出要綱の制定について、教育長の臨時代理により要綱を制定したこと、及びその内容について報告するものである。</p> <p>奨学生選考委員会の答申を受けて奨学生の決定をしようとするものである。</p>	<p>特記事項なし</p> <p>特記事項なし</p>	<p>承認</p>

## 議 事 内 容 等

3 議 事	<b>報告第 12 号</b> <b>垂水市教育委員会教育用情報機器等貸出要綱の制定について</b>
学校教育課長	垂水市教育委員会教育用情報機器等貸出要綱について、教育長の臨時代理により要綱を制定したことを報告するとともに、その内容について説明。
教育長	非常にわかりにくいと思うが、ポイントの説明を。
学校教育課長	要するに、子どもたちがどこでも使えるように事を定めましょうということで、大きな目的は、第 2 条にあるように、端末・充電用 AC アダプターを持ち帰る、通信環境が整っていない家庭には Wi-Fi ルーターの貸し出しを行うということである。 これが、教育長が言われる、「垂水らしい G I G A スクール構想」という形になる。垂水市内の学校に在籍する子に貸し出すことができ、その本人しか使用できないということで、誰でも使ってよいという話ではなく、その人以外の使用を禁じるということである。
教育長	(現物を持ってきた河野指導主事に対して) 簡単に説明をしてください。
河野指導主事	実際に、Wi-Fi ルーター、パソコンを持ってきて委員へ説明。
教育長	皆さんから何かご質問等ございませんか。あるいは、母親の立場で何かあればお願いします。
田之上委員	本体とルーターはその都度一緒に持ち帰るのか。
学校教育課長	そうである。両方とも無いと全然写らない。
教育長	インターネットに繋がらない前提で、タブレットだけ持ち帰るのは可能か。
学校教育課長	可能であるが、要は家庭にその環境があるところであれば、何も要らない訳であり、普通に使用できる。
田之上委員	貸し出しっぱなしではなく、その都度一緒に持ち帰るのか。
学校教育課長	そうである。その都度持ち帰るということである。
田之上委員	貸し出しをしてほしいという要望が多いということか。
学校教育課長	その辺はまだ、これからの申し込みですので……。今、一番不安視しているのが、使うのが怖いという保護者が多いことである。無くしたらとか、壊したらどうしようとか。そこが一番問題で、持ち出すことに不安を感じている。市町村においても、大隅管内でも持ち出しは絶対禁止という市も

	ある。予算化も出来ていないということもあり、難しいところである。
教育長	持ち帰りを前提としているのは、管内では垂水くらいである。県内でも垂水市に遅れをとったらいけないということで、補正で要求しようとしているところがあると聞いている。福里委員、母親の立場から、積極的に持ち帰らせようというお気持ちになられるか。
福里委員	<p>子どもは非常に喜んでいて。娘の先生からは何も聞いていないが、息子の先生からは、「個人のパスワードを覚えるところまではきているが、すごく大変でした。」とメッセージに書いてあったので、パスワードを覚え、入力するところまではきているみたいである。</p> <p>「夏休みはそれを持ち帰って勉強をすることになるかもしれない。」と先生に言われたと息子が話していたが、親としては、持って帰って来てほしくないという気持ちである。</p>
教育長	親としては、やはり不安があるか。
福里委員	「壊したらどうしよう」といった不安はある。他の家庭の子はよいかもしれないが、うちの子は、持ち物の管理が出来ないので不安である。子どもは、ゲーム感覚でやれると思っているのか、すごく喜んでいて、長期休みに持ち帰るとなると、やはり親としては不安である。今日持ち帰って、明日また持って行くのなら、家にある時間が短いのでよいのだが、長期休みとなると、もう、何をするか分からないので心配である。夏休みに持って帰ってくるとなると、親の目を盗み、ルーターを持ち出してゲームをするというのが、確実に起こってくると思う。上の学年から貸し出すということだったので、高学年だと、子どもたちは知恵が付いているので。
教育長	その対策について何かあるか。
学校教育課長	保護者は悪い事ばかり想像するが、兎に角、やってみないことには前には進まない。もしかしたら、A I ドリルに目覚めて怖い人になる可能性もある。大人は皆、これを持つと「ゲーム」という感覚になっているが、その観念を取り払わないと進んでいかない。「壊れたら、壊れた時。」という位の開き直りを持たないと前進しないと思う。4月22日に、垂水小が理科の授業で使って、その様子をホームページにもアップしてある。それに有難いことに、4月23日に協和小がG I G A開きをして、その様子が26日の新聞に掲載された。また、新城小が授業で使っている様子を南日本新聞社が取材して、明日、記事になる予定である。さらに、協和小が修学旅行でタブレットを使って学習している様子が、昨日のNHKの夕方のニュースで放送された。中央中も、5月8日の生徒総会でタブレットを使用したのが、その様子も取材が入り、これも掲載予定になっている。有難いことに、G I G Aスクール構想で記事になるのは垂水市だけである。先頭を走っているんで、そこを大人が止めてはいけないという話である。だから、教員にもブレーキをかけるなど指導しているところである。どちらかと言うと、教員の方がブレーキを踏んでいるので、もっと、使わせなさいと指導して

	いるところである。
福里委員	自分は手書きの方が好きで、パソコンは使えないが、子どもは学校でやっているからパソコンが使えるのですね。
教育長	世の中はもう、そういう方向ですから。否応なしに世界がそういうところを求めている訳だから。日本が如何に遅れていたかがコロナで露呈されてしまった。それで、教育委員会の基本的な考えは、「チャンスは平等に」である。使えば使うほど結果は自ずと出てくる。それで楽しさ・面白さを得た子どもはどんどん上達していき、スキルアップしていく。使用した回数で、結果は自ずと出てくるという考え方です。ある意味、不平等かもしれないが、チャンスは全て平等に与えている訳だから、お母さんもブレーキをかけないでどんどん使わせてください。
学校教育課長	福里委員が言われたように、子どもたちは非常に機器に対して興味関心が高い。先日、市の防災訓練が終原小学校であり、ペッパー君が登場して、教頭と二人で授業をするというスタイルだった。教師としては悔しいが、教頭一人が授業をするより、ペッパー君がそこに存在して、途中でお互いやり取りをすることで、子どもたちの集中力は格段にアップする。いつもより真剣になってペッパー君に答えようとする。この機械というのは、子どもたちにとってすごい力なんだと思った。
田原委員	今度の学校訪問で少しは見れますか。
教育長	教育委員の皆さんがとても楽しみにしておられるので、1人1台のタブレットの使い方を是非お見せくださいと学校に言わないといけない。
葛迫委員	タブレットは小学校1年生でも出来ますか。
学校教育課長	はい、できます。
教育長	<p>認証なんて1年生なんかすごく早いと思う。子どもたちは使いたいから、一所懸命、認証を覚えると思う。しかし、「認証とか出来る訳がない、1年生には無理だ。」とブレーキをかけるのが教員なのである。。何の為に導入したか分からなくなるので、教員にはブレーキをかけてほしくない。</p> <p>6～7ページは、申込書兼同意書であって、こういう手続きをもって端末とルーターをお貸しできるということを学校・担任を通じて、保護者・子どもたちにも取り扱いを含めて説明をして貰いたいと思っている。</p>
教育長	8～9ページは、心配をされていた何かあった時の報告書。これについて説明をしてください。
学校教育課長	8ページは、学校で保管するものである。事故報告書については、もし、何かあったら、提出してくださいというだけで、基本的には市が修理するので心配は無いところである。それについての予算化もしてある。

	あくまで故意に、これは絶対おかしいという使い方をして壊した場合のみ賠償ということである。提出された報告書についても、「分かりました。それでは市で修理しましょう。」となるのが基本的な考え方である。
教育長	改めて何かありますか。
田之上委員	私も余り得意分野では無いので、使い方について少し聞きたいが、例えば、学校が休校になった場合、担任が生徒に呼び掛けて指示を出すという使い方が出来るのか。
学校教育課長	はい、今後はそういう形にならざるを得ない。要はテレビの放送でもよくあるが、担任がカメラに向かって呼び掛けてということは、出来るようになる。しかし、これは相当準備をしておかないと厳しいところである。
田之上委員	夏休み等の長期休みで、例えば、日にちを前もって決めていて、先生から子どもたちに呼び掛けるとかは可能か。
学校教育課長	日にちを定めていれば、可能である。
教育長	今言われたように、生徒指導的な取り扱いも出来る。例えば、学校に來られない子が、そういうのを持ち帰ってれば、担任と繋がる事が出来るというような意味でも、今後使えると思う。
教育長	学校閉鎖の場合はどうか。
学校教育課長	あり得ることである。コロナ禍で去年も全国知事会が全国の学校をストップしようとする要望を出している、今でもコロナの感染者は、鹿児島市等でもオープンにはしていないが、学校でも出ている状況である。国際大とか第一工大とかの大学でも感染者が出ている。本市は出ないように。 問題は中央中と垂水小学校である。その他の学校は、教室も非常に余裕があるので普通に出来るわけである。しかし、最悪を想定していないといけけないので、学校閉鎖があると思って、先生方にはお願いをしているところである。
教育長	研修でも、リモート授業というのをさせないといけけない。
学校教育課長	学校にカメラが沢山あるわけではないので、全担任が一斉にというようなことはできない。
教育長	教室で試験的にやってみることは可能か。
学校教育課長	可能だと思う。

議案第9号  
垂水市奨学資金奨学生の決定について  
(非公開)  
(議案第9号 承認)

4 その他 なし

5 委員並びに教育長及び課長報告 委員並びに教育長及び課長報告に入る。

田原委員 「地区公民館総会の報告」

4月25日、1時半から3時半まで水之上地区公民館総会を開催した。その日は非常に素晴らしい天気です。絶好の行楽日和であった。こんな天気の良い日に会議をするのは皆さんに気の毒な気もしたが、米田館長を初め、沢山の方々の出席を得て開会できたことがとても嬉しく思えた。

コロナ禍ということで、本来であれば108人、100人を超える参加人数を85人に絞って案内したところ、最終的には72人の参加であった。会場は公民館ではなくて、隣の水之上体育館で、机は並べずパイプ椅子だけ並べ、窓を開け広げて実施した。

総会の内容は、いつもと同じ決算報告や予算案・活動計画案といった例年通りの審議だったが、その他に今年は、三和づくり計画、これは米田課長が企画政策課に居られたときに始めたものであるが、その10年目を迎えるので、来年度からの次の10年に向けて、計画作りをして取り組むかどうかの新たな内容の審議もあり、話し合いが深まった。色々な意見が出され、事業をするとなると、公民館はお金を持っていないので、市、国から補助を貰って取り組んでいこうということになった。事業をするとなると早速今年度中に策定委員会を組織し、会議を何回か開かなければならないことになるので、また忙しくなりそうである。

その他、最近ではどこの公民館でも取り組んでいることだが、高齢者を地域で見守り支え合うという目的の「支え合い会議」も議題にあがり、あっという間に2時間の協議が終了した。

それから、水之上公民館は、毎月1回第1日曜日朝6時から、「早朝ボランティア草刈り活動」と称して、幹線道路など場所を決めて行っているが、今年はその活動が、市の生活環境協会で表彰され、それを地区にあげていただき地区でも表彰され、それをまた県にもあげていただき県でも表彰されることになった。9年目を迎えるが、今も続けているこの活動は、振興会長や運営委員の方々が主体となって頑張ってくれている。その人達は1年か2年で交代していくので、いつもならこの総会后、1～2年間役員として頑張ってくれた人々を労う懇親会が開かれるのであるが、コロナ禍で昨年に引き続き今年も中止せざるを得ず、それが心残りと言えれば心残りである。最後の締めが出来ずとても残念に思うことだった。

## 「松ヶ崎小学校での絵画指導研修について」

今年も昨年に続き、5月10日に松ヶ崎小学校で絵画指導の研修を行った。小池教頭先生から、「今年は新しく異動で来られた先生が多いため、是非昨年のような絵画指導をお願いしたい。」と連絡があった。大きな規模の学校と違って本年度の研修は、3人のクラス担任、そして養護教諭、教頭・校長の6名で、新しい川瀬校長先生のもとで、「本年度スケッチ大会での描かせ方」についての指導研修を行った。去年に比べると先生方に元気があったなと感じました。

今年は1年生の児童がいなかったので入学式はなかった。2年生2人の児童を担当する萩原先生が、垂水小学校から異動で来られました。3・4年生2人を担任される小川先生は、昨年も3・4年生を担当されており、5・6年生4人を担任される本田先生は育児休暇が終わっての久しぶりの現場復帰ということで非常に燃えておられた。養護教諭の鮫島先生は、徳之島の伊仙町の馬場小学校から異動で来られた先生であった。これらの先生方の意見を聞きながら研修をスタートさせた。

私も一人一人の先生方と話が出来たことで、松ヶ崎小学校の教育現場をじっくり見つめることができとても嬉しく思えた。

まず初めに、「低学年では、校内で描ける動物や友達・先生方を描くことが多いと思いますがどうですか。中高学年では、校歌に沿って、松・錦江湾・桜島など描くのはどうでしょうか。」との私の質問に、「鶏が一匹しかいないですけど、それも大分弱っています。」とか、「松は運動場に1本しかありません。」とか、「写真を見て描くのはどうでしょうか？」などの面白い回答が多く返ってきた。

また、新しく来られた先生方が多いので、松ヶ崎地区を先生達にも良く知ってほしいと提案した。例えば、「道の駅たるみず」を全校生徒で描くとか、牛根麓地区の歴史ある「広田家庭園」や「稲荷大明神の埋もれた鳥居」とか、「居世（こせ）神社」などに連れて行って全校生徒で描かせてみてはどうですかと場所の提案もした。

その後、今描いている作品、歯磨きをしましょうというポスターを描いていたが、8人の作品を見せて貰ったが、5、6年生が皆同じ絵を描いていた。「どうしてですか？」と聞くと、「1人の子どもが描くと、皆それに沿って描いていくんです。」との返答だった。「インターネットから題材を見付けてくるんですが、これはどうですかね。」との先生の質問に、「難しく言えば、盗作の可能性もあり、犯罪になりかねないということを教えた方がよいですよ。」と回答した。「2～3人と子どもたちが少ないので、皆同じ絵を描いてしまうのだが、どうすればいいですかね。」との先生の質問に、「同じ絵を描くのであれば、皆、構図が横書きなので1人は縦に描いたら、少し違う絵になるのではないですかね。」と対応した。このような先生方とのやりとりが非常に面白く思えることだった。

最後に、子どもたちが実際に見たこと、感じたこと、伝えたいことを自由に絵画で表現できるように、子どもたち一人一人に指導することで、子どもたちの感性や想像力を伸ばして行ってほしいと要望し、絵画研修を終了した。先程から、ネットとかGIGA構想とか、そういうものも大事であるが、やっぱり、自分で感じ、実際のものを見て、それを伝える（表現する）といった事を先生方は指導していかなければいけないのかなと思う

ことだった。

田之上委員

「地域学校協働活動について」

今年度も、地域学校協働活動に携わらせていただくことになった。主に垂水中央中学校での活動になる。4月は、正門での「朝の挨拶活動」に参加した。生徒さん達は皆、制服を美しく着こなしていて素晴らしいなど思いながら見ていた。自分から大きな声で挨拶をしてくる子ども、静かに頭だけ下げていく子どもなど様々であるが、生徒の皆さんが気持ちよい挨拶をして登校してくる姿に中央中の頼もしさを感じ、朝からこちらも元気を貰うことだった。

5月は、通学バスに添乗した。今回は、新城・水之上線に乗ったのだが、運転手さんは基本的に子どもたち一人一人に「おはよう」と声を掛けてくださるのだが、小さな声で挨拶して乗ってくる子どもたちを見て、きちんと頭を下げている姿はすばらしいと感じつつ、もう少し元気に声に出して挨拶できたら尚更よいのになあと思うことだった。

それから、今年も垂水小学校で月曜日の朝10分間、「朝の読み聞かせ活動」をさせていただけることになり、今週から始まったところである。1年生だけだが、また今年度も子どもたちと楽しい時間を過ごしながら、本の楽しさを伝えていけたらよいなど思っている。またコロナがじわじわと増えてきて少し心配である。改めて気持ちを引き締めて、子どもたちの日常生活や学校行事が無事に実施できるように、学校現場の先生方、教育委員会の皆さん、努めていただきたいなど改めて思っているところである。

福里委員

「知事とのふれあい対話に参加して」

4月25日に開催された「知事とのふれあい対話」にパネラーとして参加させていただいた。私達は一番後ろの席で、10人くらいのお話を聞いた後だったが、垂水市の色々な方の意見があり、とても勉強になった。「垂水には働くところがないので皆出て行くんだ。」と言われた方もおられたが、知事の話の中に、「垂水に住んでいる方は、垂水市には何もないと言うが傍から見ると沢山よい場所やおいしい食べ物がある。県外に出る若い子ども達にも郷土愛が育めるように、小さい頃から色々な体験をする事が大切だ。」という話がすごく頭に残っている。

色々な体験をする中でも、垂水の素晴らしい場所、美味しい食べ物などの垂水らしい体験を自分の子どもや園児にもさせることが大切なんだと思うことだった。

私が働いている幼稚園では、自然体験学習をよく行っている。先日、年長さんと年中さんを「じゃがいも掘り」に連れて行った。全員が生まれて初めて「じゃがいも掘り」をしたということで、とても喜んでいて、じゃがいもを発見すると歓声があがり、なかには、「土が気持ちいいね。」と言う子どももいた。「茎の下にじゃがいもは隠れているから、茎の横を手で掘るんだよ。」と教えたのに、茎を引っ張ってそれでおしまい。横の土を手で掘ることができない子どももいて、少しショックを受けた。自分も

教育長

働き出してから「じゃがいも掘り」を体験したが、家庭では出来ない体験を子どもたちにいろいろさせてあげられたらいいなあと思うことだった。

令和3年度がスタートして1か月余りが経ち、少し感じるところがあるが、冒頭話題にしたGIGAスクール構想が具体的に実践をスタートしている。非常に進んでいる学校、ようやくスタートが切れた学校、様々だが、学校間の格差が出ないようにしたいと思う。

そういう意味では、小さな学校ほどスタートし易いと思うが、先生方に抵抗があるようで、教師がまずそこをクリアしないと、なかなか難しいと思う。子どもたちにまず使わせてみる。そして、失敗体験を重ねながらよいものをつくっていく。よい授業をつくり上げていく。あるいは、効果的な場面を見付けていくというようなことの積み重ねだと思っている。そういうことで、今後、いきなりの学校訪問もしながら、活用状況を把握して指導もしていきたいと思っている。

次に、連休中のことであるが、境小学校で「地域交流会」という活動があった。公民館あるいは地域が主体となり、「遊び体験」がメインで境小学校に人を集めるという活動であった。私も、「来られませんか」と誘いを受けたので出向いて行った。5月2日、その日は風が強くて寒い日だったが、その寒い中でも、半袖で凧揚げをしている人もいた。

私は幸いに、境小の唯一の児童である6年生のお父さんと話をする機会があった。

お父さんも、「娘さんをしっかり支えて卒業させたい。」という想いで毎日、見守っておられるのだなということがすごく伝わってきた。それと併せて、出来れば地域と学校が主体となり、特認校制度を活用して、児童が1人でも2人でも増えてくれれば有難いなと思った。またこの活動は夏休みもやるのだと聞いている。この日も、合計で70人を超えていたので、やれば人は集まると思う。確か垂水小の子も来てくれていた。このような活動を積み重ねていき、特認校制度を利用しながら境小を選んでくれる子、あるいは、帰ってくる子もいるのではないかと思う。また、次回は広く周知をしていただければいいなと思うところである。

次に、「知事とのふれあい対話」の件である。今、福里委員からも報告があったが、私も垂水が抱える様々な課題が整理できたよい機会だったと思う。水産業ではこういうところがある、農業ではこういうところがあると。

知事の発言の中で、私も色々思うことがあったが、学校現場に求められたのが、いわゆる、「郷土教育の充実」ということであった。そうすると、「故郷への課題意識を持ち、やがては故郷に貢献する人材を育成する。」ということで、私自身は、最終的には、「自分の故郷の魅力を、自分の言葉で語れる子どもを育てることだ。」と思っている。これがまさに、私どもが行っている、「ふるさと学習、総合的な学習」の考え方である。そういう子どもたちを育てていきたいと思っている。先程、葛迫委員が文化という側面から発言されたが、垂水は大隅半島の中でも、非常に文化の意識・レベルが高い処であるが、それをどのように発信していくかが重要である。様々な媒体を使った情報の発信が増えることで、まさに知事がおっしゃった「点と点が繋がり線となり、やがては面となっていく」ことであろう。

最後にコロナの影響ということで、今、県内でも新規感染者が40人を超え、データでは鹿児島でも変異株が50%を超えていて、非常に怖いことである。更なる感染予防対策の徹底が必要であると思う。このような中、昨日から中央中が修学旅行を行っている。幸いなことに、体調が悪いとか何の事故報告も聞いていない。よい思い出をいっぱいつくって無事に帰ってきてくれることを願っている。因みに協和小が今日と明日。鹿児島市を外して、指宿へ。宿泊も指宿です。これは、校長先生の思いである。水之上小が来週の18, 19日。垂水小学校も来週の18, 19日だったが、6月8日～9日に延期になったと報告を受けている。

コロナで色々なところにしわ寄せがきているが、子どもたちにとって修学旅行は大きな大きなイベントである。6月8日、9日あたりは、感染拡大が収束すればよいなと思うことである。

私が嬉しく思ったのが、中央中の修学旅行の欠席者がいなかったということである。保護者が心配をして、行かせるのにストップをかけられるのではと思っていたが、想定外だった。3年生は既に出発したので、来年の3月に今度は2年生が出発する。その頃には、ワクチン接種も行き渡っているであろうと期待したい。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長  
兼  
国体推進課長

4月13日から5月11日までの主な行事等について各課長が報告。  
併せて、5月12日から6月9日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会